

書くこと③

第1学年

自分の考えを明確にしなが、調べたことをまとめること

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

調べたことから、学習のめあて(役目・つくり・できることを意識して書く)に則した伝えたい内容が決められない。

自分が関心をもったことを感想として書き出していて、事柄ごとにまとめてかゝるたに書くという目的意識がもてていない。

ジェットきは、すごよ。大きくて、はやくとぶよ。ほくものつてみたいな。

でんしゃは、たくさんひとでいっぱいです。しゃしやうさんがいます。

乗り物の特徴や事実は書いているが、学習のめあてに則した内容を見つけたり、役目・つくり・できることを表す書き方で書いたりできない。

実践の概要

単元名

のりものかるたをつくろう

『いろいろなふね』東京書籍

目標 書かれている内容を事柄ごとに読み取り、わかったことや調べたことをまとめ、のりものかるたを作る。

- 内容
- 読み取ったり調べたりしたことを、事柄ごとにまとめたのりものかるたに書くという単元の見通しをもつ。
 - 書かれている内容を事柄(役目・つくり・できること)ごとに読み取り、大事な言葉を探して文章にまとめる。
 - 「のりものかるた」を作り、交流し振り返る。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容(単元名)		つまずきの実態
第6学年	自分の投書を新聞に投稿しよう	自分の主張に沿った理由とその理由につながる根拠が書けない。
第5学年	「和の魅力リーフレット」を作ろう	目的に応じた小見出しを作り、その内容を説明する文章を自分の考えと区別して適切な資料を入れながら書けない。
第4学年	広告大賞を目指して、夢の〇〇商品の広告を作ろう	2つの文章を読み取り、それぞれの意図や目的による違いが挙げられない。
第3学年	理由がわかるように書こう	自分の考えたこととその理由を整理し、順序立てて書くことができない。
第2学年	絵を見てお話を作ろう	場面がつながるように、伝えたい事柄を決められない。
第1学年	のりものかるたをつくろう	調べたことから、学習のめあて(役目・つくり・できることを意識して書く)に則した伝えたい内容が決められない。

単元末の目指す姿

- 調べたことを事柄ごとに整理でき、伝えたい内容が決められるようになる。
- 目的を意識しながら教材文を読み取るようになったり、教材文の事柄ごとの定型文を活用して文章が書けたりするようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

★主体的な学びにつながる実践

導入時に教師作成の成果物を提示し、わかったり調べたりしたことを事柄ごとにまとめたのりものかるたを作るという単元の終末段階を示す。

- 活動のねらい▶
- 目的意識や学習の見通しがもてる。
 - 目的的に教材をとらえ、事柄ごとに読み取ることができる。

ここがポイント

教材文で学習するかるたの内容や書き方、レイアウトなどがわかる成果物を提示し、学習への意欲付けや学習の見通しをもてるようにする。提示する成果物は言語活動のモデルとなり、いろいろな段階で、児童がどのように書けば良いのか考えられるようにする。

言語活動のモデル

つくり	ヤ	す	が	ん	ト
	が	。	や	ぼ	ラ
	大	う	す	や	ク
	き	し	た	は	タ
	い	ろ	め	た	ー
	よ	の	の	け	は
	。	タ	車	を	、
	イ	で	た	田	



(期待される児童の姿)

教師作成の成果物を提示することで、どんな学習をするのか、単元の見通しをもつことができ、毎時間の目的意識も明確にもてるようになるなど、主体的な学びにつなげることができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

事柄ごとに色分けした穴埋め形式のワークシートを用いる。

- 活動のねらい▶
- 事柄ごとに内容を整理したり、事柄ごとの書き方を意識したりすることができる。

ここがポイント

「役目」「つくり」「できること」が書かれている段落の中で、それぞれ大事な言葉を穴埋めにしてワークシートを用意し、児童が事柄ごとの内容を考えられるようにする。また、その理由を話し合うことで事柄ごとの書き方にも気付くようにする。

穴埋め式のワークシート

			【やんぱん】
		火	
ま		じ	
す	き	が	
。		あ	
		る	
		と	
		、	
		、	
ま	や		

		【いんげん】
		い
		ま
	や	す
		。
		を

		【やくも】
		め
		の
		ふ
		ね
		の
		で
		す
		。
		を
		た

(期待される児童の姿)

事柄ごとに色分けし、マス目を使った穴埋め式のワークシートに大事な言葉を書かせることで、事柄ごとに内容を整理できるようになる。